

塾の目標：“聞く・見る学習の場” から“聴く・考える・話し合う学習の場”を目指す。

開講時間：午前10時～12時 会場：東生涯学習センター

回	実施日	学習テーマ	学習目標(内容)	講師等
1	5月21日 (第3火)	・開講式 ・「寄席を体験しよう！」 ～落語を聞いて、気持ちにゆとりを～	落語は気軽に楽しめる伝統芸能。扇子と手ぬぐいの他は何も持たず、身振り手振り、そして話し方や声色だけで役柄を演じ分ける。落語の魅力は、滑稽な話や人間臭い失敗談、人情に訴えかけるような話で、情景が広がる面白さにある。演者の技巧と聴き手の想像力で噺(はなし)の世界を広げていくのが特徴。噺(はなし)の最後には遊び心の利いた「オチ」があり、それも楽しみである。落語の他に紙切りもあり見せ場が満載。	冗談法人 真岡落語研究会代表 小崎 治氏 他
2	6月18日 (第3火)	「紫式部と王朝文化の世界(一)」	今年の大河ドラマの「光る君へ」にちなんで、主人公の紫式部、そして舞台となった平安時代について理解を深める講座。紫式部の人生をたどりながら、その文化環境を明らかにしていく。第一回は、ドラマに出てくる為時家の漢籍や東三条邸の青磁などの調度品、王朝の紙や猫について学ぶ。	宇都宮短期大学 客員教授 東京学芸大学 名誉教授 河添 房江氏
3	7月16日 (第3火)	「紫式部と王朝文化の世界(二)」	今年の大河ドラマの「光る君へ」にちなんで、主人公の紫式部、そして舞台となった平安時代について理解を深める講座。紫式部の人生をたどりながら、その文化環境を明らかにしていく。第二回は、ドラマに出てくる五節をはじめとする年中行事、打毬(だきゅう)・偏継ぎ(へんつぎ)など娯楽について学ぶ。	宇都宮短期大学 客員教授 東京学芸大学 名誉教授 河添 房江氏
4	8月20日 (第3火)	「江戸時代の宇都宮」 ～商品流通と衣生活～	江戸時代に多くの人と商品が往来した宇都宮城下。当時のまちなかではどのような店が営業していたのだろうか。生活必需品であった衣料品は需要が高く、真岡木綿や結城紬などを含む織物はくりかえしリサイクルされ、様々な商人の手を介して消費者の元へ届けられた。江戸時代の人びとの衣生活を想像しながら、宇都宮を中心とする商品流通のあり方についても学んでみよう。	宇都宮共和大学 非常勤講師 寺内 由佳氏
5	9月17日 (第3火)	「笑い」で若さと健康を	笑いヨガは、「笑いの体操」と「ヨガの呼吸法」を組合せた健康法である。笑う効果として、免疫カアップ・NK細胞活性・鎮痛・幸福感・ポジティブ思考…等々によって心身両面の健康度が上がる、ということが知られている。しかし実践しなければ何の効果も得られない。そこで本講座では、笑いの体操・呼吸法・瞑想について理論と実践を学びながら、『毎日実践していこう!』とする意欲を高める。	ラフターヨガ・アンバサダー 宇都宮大学終章コミュニティ ワーカー 高岩 初枝氏
6	10月15日 (第3火)	渡良瀬遊水地の紹介 コウノトリが連れてきた 「つながり」	渡良瀬遊水地は、関東平野のほぼ中央に位置し、栃木、群馬、埼玉、茨城の4県4市2町にまたがる日本最大級の遊水地である。そこには多様な動植物が生息する豊かな生態系が形成されている。2012年には「ラムサール条約」に登録され、2019年NPO法人化し、「コウノトリ」や「トキ」が野生繁殖出来るように、国、県、市町村を挙げて取り組んでいる。その中心となる考え方は「つながり」である。	特定非営利活動法人わたらせ 未来基金 理事長 青木 彰彦氏
7	11月19日 (第3火)	栃木のヒーロー「藤原秀郷」 を知ろう 宇都宮でも活躍した歴史に残る偉人	下野國・佐野の地に唐沢山城を築いて本拠地としていた。史実では、「平将門の乱」を鎮圧して将門を討ち取った武将である。伝説では近江三上山の「大ムカデ」退治や、宇都宮の「大鬼・百目鬼」退治がある。	藤原秀郷をヒーローにする会 理事長 宮本 誠氏 語りべ 有岡 光枝氏 講談担当 都 宮子氏
8	12月17日 (第3火)	・「哀愁の津軽三味線」 ・閉講式	津軽三味線は、津軽の風土と歴史が育んできた伝統芸能である。もともと即興で演奏されていた津軽三味線は、弾き手によって音色がさまざまに変化するのが魅力のひとつ。その音色は、力強さとともに繊細さももっている。津軽三味線の歴史に触れながら生の演奏を身近に聴き、繊細で奥深い音色を感じてみよう。	長谷川流 津軽三味線 長谷川 裕紫氏